

## 回 答 書

受付番号	回収年月日	回収場所	担当主管課
第13号	令和6年5月27日	伊予市役所	産業建設部 上下水道課
題 目(テーマ): 上下水道管の漏水点検と更新の推進について			
提 案 理 由(要旨)			
<p>日本に水道管が普及したのは、全国的にインフラが進んだ1960～1970年代の高度経済成長期です。水道管の耐用年数は40年程度であるため、現在、多くの水道管が更新期を迎えています。このような時期に南海トラフ等の大地震がやってくると被害が大きくなると心配しています。恐らく能登半島の被害状況を見てのとおり、液状化現象発生となり、ライフラインに被害が集中すると思われます。特に道路の陥没等を生じ、水道管等が破損し水漏れによる二次被害にもつながります。この水道管の復旧工事には3か月も要し、市民たちも最も苦しんでいます(能登半島地震から)。水は一人当たり、1日で1.5～2.0ℓを補給せよと言われている。人が生きるためには水が最も重要です。</p> <p>そのためには、耐久性に優れた水道管更新のための予算化を優先させていただきたい。また、最新機器の漏水探索機を購入していただき、早急に漏水有無の確認をしていただきたい。特に市内でも老朽化が進んでいると思われる湊町、灘町を優先願いたいです。</p>			
回 答 内 容			
<p>平素より、本市水道行政にご理解とご協力を賜り、厚くお礼申し上げます。</p> <p>また、「上水道管の漏水点検と更新の推進について」の御意見を頂き、誠にありがとうございます。</p> <p>頂きました御意見につきまして、次のとおりお答えいたします。</p> <p>本市の上水道施設の耐震化につきましては、令和元年度から国の補助を受けて、配水池及び基幹管路と呼ばれる導水・送水・配水本管(主要な配水管)について順次耐震化工事を実施しているところであり、現在は八倉配水池から灘町までの配水本管、全延長8.7kmの耐震化を進めており、令和10年度を完成の目標としています。</p> <p>耐震化事業につきましては、実施において多額の費用と期間を要しますことから、今後についても国の補助金を活用するなどし、財政状況を勘案しながら施工箇所の優先順位を付けて可能な限り早期の実施に努めてまいりたいと考えております。</p> <p>また、配水支管の耐震化につきましても、例えば避難所につながる管や過去に漏水が発</p>			

生した老朽管から耐震管への更新を、順次、実施しているところです。

漏水点検につきましては、毎年、市内の地区を区切って専門業者による漏水調査を実施し、発見次第、漏水修理を行なっております。それ以外にも漏水と思われる箇所について市民の方からご連絡いただいた場合には、職員等により漏水探知機を使用した調査を行うなど、現場対応に努めております。

災害時の飲料水、生活水の確保は、被災者の生命、生活を守るために必要不可欠なものと理解しており、今後も、緊急度等を勘案しながら随時、管路等の耐震化に努め、安心安全で清浄な水を安定供給することに努めてまいりたいと考えておりますので、ご理解を賜りますようお願いいたします。